

## 学術年会開催にあたって

中井 大介 (学術年会長)

このたび、第33回HAB研究機構学術年会の年会長を拝命いたしました。年々進展を続けるヒト由来試料を用いた研究の重要性を鑑み、本年の年会テーマを「ヒト由来試料で切り拓く未来」と設定いたしました。

創薬・医学研究の現場では、ヒト組織やバイオプシサンプルを活用したトランスレーショナルリサーチへの期待は依然として大きく、一方で、ヒト由来試料の取り扱いや解析技術の高度化に伴い、試料の品質管理や倫理的課題にも一層の注意が求められております。

本年会では、ヒト由来試料を用いた研究における結果取得までの幅広いプロセスを題材とし、材料・分析・解析の観点から最新の研究動向と課題を、国内外の第一線で活躍される研究者の方々にご紹介いただきます。これらの議論を通じて、ヒト由来試料の新たな活用法や社会実装に向けた展望を共有し、多様なバックグラウンドを持つ参加者間で活発な意見交換が行われることを期待しております。

今年は開催場所を品川の第一三共株式会社品川研究開発センターとし、現場での直接対話によるディスカッションの場を設け、知見の深化とネットワークの拡充を図ってまいりたいと考えております。ヒト由来試料研究の最前線に触れ、ともに未来を切り拓く意欲あふれる皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## <会場へのアクセス>



## <お問い合わせ・お申込み先>

特定非営利活動法人 HAB 研究機構

〒272-8513  
千葉県市川市菅野5-11-13 市川総合病院 角膜センター内  
TEL : 047-329-3563 FAX : 047-329-3565  
E-mail : secretariat@hab.or.jp URL : <https://www.hab.or.jp>

※年会特設サイトを準備しております。  
今しばらくお待ちください。

Non-profit organizations  
Human & Animal Bridging Research Organization

## 第33回HAB研究機構学術年会 ヒト由来試料で切り拓く未来

< Second Circular >



学術年会長 : 中井 大介

(第一三共株式会社)

学術年会特別委員長 : 木内 祐二

(昭和医科大学)

日時 : 2026年6月18・19日 (木 - 金)

会場 : 第一三共株式会社 品川研究開発センター講堂

協賛 : 日本薬物動態学会 日本薬理学会  
日本臓器保存生物医学学会 日本再生医療学会  
日本動物実験代替法学会  
後援 : 日本毒性学会 日本臨床薬理学会

(順不同)

# 第33回 HAB 研究機構 学術年会 – プログラム概要 –

6月18日(木)

9:50 ~ 開会の辞

10:00-10:50 特別講演 I

座長：金子 洋介 (大塚製薬株式会社)

『リポクオリティからリピドームアトラスへ～脂質多様性の生物学で用いられている分析技術～』

有田 誠 (慶應義塾大学)

11:00-12:45 シンポジウム I

モダリティ研究開発でのヒト組織の利用

座長：楠原 洋之 (東京大学) 中仮屋 匡紀 (武田薬品工業株式会社)

◆ヒト由来神経を用いた NAMs による創薬支援

鈴木 郁郎 (東北工業大学)

◆血管構造の再現による Microphysiological systems (MPS) の開発と社会実装への取り組み

横川 隆司 (京都大学)

◆臓器毒性を評価するためのヒト細胞を用いた *in vitro* 試験の活用

鮫島 知哉 (武田薬品工業株式会社)

◆尿から始まる創薬 - 尿由来幹細胞が変える希少神経筋疾患のモダリティ研究 -

青木 吉嗣 (国立精神・神経医療研究センター)

12:45-14:00 ランチョンセミナー

※ 講演 30 分、その後食堂にて昼食

14:00-15:30 一般講演 I

15:40-17:15 シンポジウム II

培養デバイス側からの話題

座長：平林 英樹 (株式会社ティー・エヌ・テクノス) 岸野 有紀 (第一三共株式会社)

◆ヒト細胞機能の高度発現を可能にするマイクロ流体デバイスの開発と創薬への展開

高山 和雄 (東京科学大学)

◆ Microphysiological System に向けた電気化学デバイス

伊野 浩介 (東北大学)

◆三次元細胞培養技術 *invivoid*® を用いた人工組織モデル構築と創薬評価系への展開

内藤 靖之 (TOPPAN ホールディングス株式会社)

17:30- 懇親会

6月19日(金)

10:00-10:50 特別講演 II

座長：長坂 泰久 (アステラス製薬株式会社)

『ヒト化マウスを用いた免疫腫瘍学研究与展望』

石川 文彦 (東京科学大学)

11:00-12:30 シンポジウム III

組織生検サンプルを利用した研究

座長：伊藤 晃成 (千葉大学) 月見 泰博 (あすか製薬株式会社)

◆ Next-Generation ADC Discovery & Translation ~ Research with Patient-Derived Models ~

市川 克臣 (クラウンバイオサイエンス社)

◆患者がん移植ゼブラフィッシュシステム (PDXZ) による創薬スクリーニングと臨床治験応用

田中 利男 (三重大学)

◆ Maximizing Insights from Tumor Explants with the MISO Chip Devices and Spatial Biology

Etienne Laurent (MISO Chip 社)

12:30-13:45 ランチョンセミナー

※ 講演 30 分、その後食堂にて昼食

13:45-15:15 一般講演 II

15:25-17:15 シンポジウム IV

Liquid biopsy サンプルを利用した研究

座長：諫田 泰成 (国立医薬品食品衛生研究所) 中島 美紀 (金沢大学)

◆細胞外小胞の解析技術を基盤とした Liquid biopsy の開発

吉岡 祐亮 (東京医科大学)

◆核酸バーコードを活用した細胞外小胞研究の新展開

小嶋 良輔 (東京大学)

◆血中循環腫瘍細胞のシングルセル解析から紐解く病態予測

吉野 知子 (東京農工大学)

◆リキッドバイオプシーの現在地：がんゲノム、MRD、そして MCED へ

中村 能章 (Oxford 大学) ※オンライン参加

※敬称略

※演者、演題ならびに講演順、講演時間等に変更になる場合がございます

<ご案内>

懇親会

6月18日(木) 講演終了後

年会 1 日目講演終了後に懇親会を開催いたします。皆様、是非ご参加ください。

参加費：8,000 円 (事前 6,000 円)

一般講演 (ポスター&オーラル)

18・19 日 両日開催

一般講演 (ポスター&オーラル発表) を開催いたします。若手研究者・学生を対象に優秀発表賞を選出・授与しますので、奮ってご応募ください。

第33回 HAB 研究機構学術年会  
組織委員

伊藤 晃成 (千葉大学)

金子 洋介 (大塚製薬株式会社)

諫田 泰成 (国立医薬品食品衛生研究所)

木内 祐二 (昭和医科大学)

岸野 有紀 (第一三共株式会社)

楠原 洋之 (東京大学)

関野 祐子 (東京大学)

中井 大介 (第一三共株式会社)

長坂 泰久 (アステラス製薬株式会社)

中仮屋 匡紀 (武田薬品工業株式会社)

中島 美紀 (金沢大学)

月見 泰博 (あすか製薬株式会社)

檜杖 昌則 (ファイザー株式会社)

平林 英樹 (株式会社ティー・エヌ・テクノス)

吉成 浩一 (静岡県立大学)

(敬称略・五十音順)